

青森県農協中央会会長賞

ひいおばあちゃんのお米

西園小学校（八戸市）二年 蛭名 優心

私のひいおばあさんは田んぼでお米を作っています。私はいつも田うえのお手つだいをしています。はじめは楽しいと思っただけど、だんだんつかれてきてあそびたくなることもけっこうあります。そしてザリガニやからすが田んぼをあらしてしまったりしてせつかくのお米が台なしになることも、雨がぜんぜんふらない日がつづいてイネがぐったりしてかれそうになることもあります。お米はうえればおわりではなく、そのあとのおせわがとても大へんなことが一年を通じて見るとたくさんありました。ひいおばあさんは、

「米をそだてることはかんたんなことじゃないだろ。生きるためには食べねばならないし手間ひまもかかるんじや。だから、しゅうかくして自分のはらさ入った時によけいにうまいと思うし、いただきます。とかんしゃして手を合わせることもできるんだよ。」

と言いました。今まで何も考えずに手を合わせていただきますと言っていたけど、お米一つづ一つづをそだてる大へんさが分かってからは、手を合わせる時、ありがとうという気持ちで目をつぶるようになりました。今までかんたんに食べるのこしたり、米つぶがお茶わんについていてもべつに気にならなかったのが気になるようになりました。

秋には田んぼは夕日と赤とんぼにてらされてとてもきれいです。ひいおばあさんと手をつないでそのきれいな田んぼをながめると、なんだか田んぼが自分の赤ちゃんのようにかわいく思います。夏休みはしゅうかくしたお米でお母さんといろんなりょう理をしました。とくにおいしかったのはれいとうしたたまごをおにぎりの中に入れて食べたことです。ひいおばあさんに作ってもっていくととてもよろこんでくれました。今度はみんなでワイワイお米をかこんで炭でやきおにぎりがしたいです。

